

発展途上国の政治と社会

PRESENTATION

イスラーム過激派:アルカーイダの思想



イスラーム世界の社会変動

近代化

- 医療・衛生の向上
 - 若年人口の増加
- 公教育の充実
 - 医学・工学教育も充実



国家の発展という目的

- 近代国家を支える技術官僚を作り出す

人口爆発と失業青年層

近代化が生み出した失業青年層

- 近代化の初期には公務員や公営企業という職場があった
- 現代に近づくにつれて、青年層への雇用供給ができなくなる
- 政府や社会に対する不満が大きくなる



識字率の向上とコーラン解釈

- かつてコーランを誦読できることは特殊技能だった
- コーランを誦読し、社会秩序を維持するために解釈し、判断を下す能力は、専門の教育機関で養われた
- 初等教育の普及によって、識字率が向上し、普通の人でもコーランを誦読できるようになった



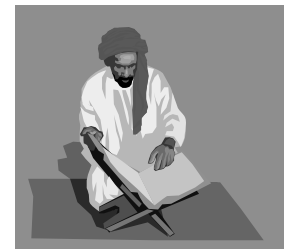
コーランの素人解釈

- イスラーム復興現象は近代化の進展と挫折に伴って生じた
- コーランを専門家に抛らず、独自の観点から解釈する人間が現れる
- コーランやイスラームに関して初歩的な知識がなくても、素人が解釈を下す



素人解釈の危険

- 社会問題の解決をイスラームに求めようとする人々の間に、独自の解釈が広まる
- 不信仰者(タクフィール)の判断
 - 不信仰者には人権が認められない
- コーラン解釈の専門家であるウラマーたちは素人解釈を強く批判する



イスラーム法の素人解釈

- 現在の政治権力はイスラーム法の観点から正統性を持たない
- 権力者は不信仰者である
- 不信仰者はジハードによって打ち倒されなければならない



素人解釈者の出自

- 医学、工学などの高等教育を受けた人々
- イスラーム学(シャリーア学、フィクフ学、神学など)を修めた人間はわずか
- イスラーム主義が「近代化の鬼子」といわれるゆえん



「イスラームによる解決」はありうるか？

- 過激派のテロは、広範囲の支持を集めることにはならない
- イスラーム主義の中には、社会活動(医療・福祉など)を通じて支持の拡大を図るグループもある
- イスラームによる社会改革は可能か？



イスラーム主義衰退説

- イスラーム主義は分裂し、社会変革運動としての力はもはやない
- 社会運動が力を持つには、幅広い大衆的支持基盤がなければならない
- 敬虔な商業ブルジョワジー層が、イスラーム主義の支持基盤になりえたが、今日では期待できない



ジル・ケペル

イスラーム主義の衰退

- イスラーム主義が政治権力を握るには、二つの大衆的基盤を結びつける必要があった
- 都市に居住する貧困青年層
- 敬虔な商業ブルジョワジー(バザール商人)



文献紹介

- ジル・ケペル(2006)『ジハード:イスラーム主義の発展と衰退』産業図書
 - 講義の題材としたイスラーム主義運動の比較政治学的分析
- ジル・ケペル(2005)『ジハードとフィットナ』NTT出版
 - アルカーイダの動向を中心とした一般向けの議論